

町医者だより

平成29年04月号

あらしのよるに

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

このタイトルを見て、ピンと来る方もいらっしゃると思います。木村裕一さんの絵本の題名で食べられてしまう側の子羊と食べる側のオオカミの子どもがあらしのよるに避難した小屋で出会った事から物語が始まります。二人は鼻が詰まっただけにおいが分からない上にカミナリで辺りが明るく照らされても、怖くて目をつぶってしまい最後まで正体が分からずじまい。再会を約束して別れるのですが・・・、それから話は続いていくのですが。今回は雷雨に関連する現象です。

オーストラリア メルボルンにて

2016年11月24日の夜半から翌日にかけてオーストラリアのメルボルンで雷雨と共に8500名以上の喘息患者が救急病院に搬送され、9名が死亡する事態になった。これは「雷雨（サンダーストーム）関連喘息」thunderstorm related asthmaと呼ばれる現象で、花粉症を持っている方に起こりうる稀な現象です。

発生のメカニズム

1 イネ科の花粉にはでんぷんが含まれていて雷雨が接近した時の水圧や雷による荷電で花粉が破壊され花粉のアレルゲン(刺激物質)を含むデンプンの微粒子になって地上に降り注ぐ。

2 イラクサ科（ヨーロッパの花粉症の代表的な原因）の花粉のようにデンプンを有していない花粉の場合は、花粉が雷雨に伴う水圧で、アレルゲン（刺激物質）を含む微小で微量の細胞質からなる小粒子状に破壊されて地上に降り注ぐ。

3 アルテナリアやクラドスポリウムといったカビの胞子が地上に降り注ぐ

これら①②③のような微小物質が気管の奥まで侵入し喘息症状を引き起こすと考えられています。この喘息は非常に重篤です。この時、大気汚染物質（オゾンやNOX窒素酸化物などの）濃度上昇は見られないと言われています。イネ科の花が咲く5月、6月は注意が必要です。花粉の季節に喘息が悪化しやすいのは、このような花粉の破壊、微小化が起こっている可能性があります。あらしのよるには、喘息が悪化する可能性があるという話でした。